



埼玉を演出する
人たちⅡ



埼玉情報社

個人版アセットマネジメントの展開に力を注ぐ



武蔵コーポレーション社長

大谷 義 武

世界景気の混迷から株式や投信の運用結果が大きく低下、低金利とあいまって資金運用難の様相が強い。少子高齢化時代の到来で老後の生活資金は個人で備えることが重要な時代だ。そうした中、アパート・マンションを所有して家賃収入を得る動きが強まっている。そうした動きを背景に大谷社長が率いる武蔵コーポレーションの業績は一貫した右肩上がりの上昇だ。大谷は将来的には「真の日本人」を育てることに思いを馳せている。

予定外の三井不動産入社が人生の転機に

昭和50年10月6日に埼玉県・熊谷市で生まれた。しかし、体が弱く、ぜんそく引き籠りのため、5年〜6年生の時は学校通学が難しい状況となった。市内の公立中学校に通うのは無理との判断から両親の勧めに従い、浦和のルーテル学園に入学した。中学に入ると学校に通える健康体になり、高校は浦和西高校へ進学。高校では勉強もせず遊びに熱中した。そのため1年浪人、予備校に通い東京大学経済学部に入學した。大学では勉強よりもテニスに熱中したが、そのために体はすっかり丈夫になった。

卒業後は銀行へ就職する気だったが、母親の親しい人の薦めがあり親孝行のために入社試験に受かっていた三井不動産に入社した。これが人生の岐路となった。三井不動産には平成11年4月に入社し、平成17年12月に退社した。6年半のサラリーマン生活だったが、社会人1年目の帰宅は毎日午前4時頃。とにかくよく働いた。会社は総合不動産会社として事業拡大の途上にあり、私はショッピングセンター、オフィスビルの開発、運営などを担当した。アウトレットオープンへ向け土地を探しそこに建物を作り、結果的にどの位の収益が得られるかなどの企画も担当、非常にいい経験をしたと思っっている。

自身の経験で収益用不動産売買の有望性を実感

ただ、規模の拡大と利益を目指す企業の在り方に疑問を持ち、平成17年12月、武蔵コーポレーションを創業した。インターネットでホームページを作り仲介専門で営業を開始、睡眠時間の短縮と体力の限界に挑んだ結果、2か月目になるとホームページで仲介の成約を取れるようになった。平成19年1月に有限会社から株式会社武蔵コーポレーションに改組し、収益用不動産の売買を開始した。28歳の時に母が相続した土地に自分名義でアパートを建て、さらに中古のアパートを買い増したいと思ったが、収益用不動産を扱う業者がないため物件が見つからない。その時、このビジネスが成功すると確信した。

収益用不動産を取得したオーナーの方々の勉強の場として武蔵コーポレーションオーナーズクラブを設立。平成20年8月、資本金を5000万円とし、オーナーズクラブが本格的に軌道に乗り、売上が10億円台乗せを果たした。平成21年7月「アパート事業による資産形成入門」を幻冬舎より発刊、反響が大きく平成22年5月に続編の「利益最大化を実現するアパート経営の方程式」を同じく幻冬舎から発行した。平成21年11月には発行額9000万円の第1回少人数私募債を起債して事業拡大資金にした。

個人版アセットマネジメントの展開に力を注ぐ

武蔵コーポレーションは収益物件の一棟売りに特化しているが、これは競合がないから。売り手、買い手双方に良好な条件を提示することにより売買が継続する好循環で昨年8月決算の売上も目標の20億円は若干下回るが増収益を達成した。40歳になる平成28年までに年商100億円が目標だ。「売りたい、買いたい、管理を何とかしたい」という個人の方の要望に応えられる個人版アセットマネジメントの展開が成長の骨子。事業の拡大とともに個人的には小・中・高一貫の学校を作るのが目標。戦後失われた日本人としての価値観を取り戻すため日本の歴史、文化を教え「真の日本人」を育てることを目指す。自分の国を愛し、誇りを持てる子供たちが増えれば日本は必ずよくなっていくことを信じている。自分が生まれ育った埼玉県に少しでも貢献できることを願い、地元密着でさいたま市にオフィスを構えた。

大谷義武 ◎ プロフィール

昭和50年10月6日 熊谷市生まれ
平成11年3月 東京大学経済学部卒業
平成11年4月 三井不動産入社
平成17年12月 三井不動産退社
平成17年12月 武蔵コーポレーション
を設立
平成19年1月 有限会社から株式会社
へ改組、現在に至る